

3つの“健康”で再構築する茅野サステイナブルローカルシティ構想

～限られた資源の最適な組合せによる柔軟性と強靱性の発揮・未来型「ゆい」の創造～

地域課題、解決に向けた目標と今後の方向性

私たちが守ってきた大切なもの（支え合いの暮らしと文化、豊かな自然）が、人口減少・少子高齢化、都市化の進展により失われつつあります。今こそ、DX新時代に相応しい先端技術の活用と高度な情報処理能力を地域社会に取り入れ活用し、社会インフラや産業の強靱化や限りあるマンパワーの健全化を進める必要があります。

	顕著な課題	これまでの特徴ある取組事例	目標と今後の方向性
① 広い市土と集落や観光地、別荘地の維持、老朽化が進むインフラ・ライフラインの改修	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交通の不採算・非効率運営（生活の足と観光輸送の分断） ・転入増に伴う住宅地の散在化 ・インフラやライフラインの老朽化（全面的改修の困難） ・空き家、空き別荘、空き店舗の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・「Ma a S（V I A）」による実証運行 ・「L P W A」による登山者、児童の見守り ・「別荘市民」の参入による財産区資産（山林）の共同管理 	<p>社会インフラや産業の強靱化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通網の最適化 ・防災、見守り体制の充実 ・インフラ、ライフラインの長寿命化 ・地域経済循環 ・支え合い、助け合いの促進 ・市内観光、滞在の高付加価値化 ・観光資源の最適化 ・中小企業連携促進 ・空き家、空き店舗等の有効活用 <p>限りあるマンパワーの健全化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データを包括的に利活用した「市民」の健康に寄り添う体制の構築 ・眠っている人的リソースの活用 ・デュアルワーク等、従来の働き方の変革によるマンパワーの確保 <p>先端技術の活用と情報処理能力の高度化</p>
② 地域の健康を支えてきたマンパワーの不足	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域包括ケア」を支える担い手の不足、区・自治会加入者や消防団員の減少、住民自治の担い手不足 ・高齢化の進行、独り暮らし高齢世帯の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国に先駆けた「保健補導員制度」 ・「地域包括ケア」 ・「福祉21ビーンズプラン」に基づく地域コミュニティにおける地域福祉の推進 ・「どんぐりプラン」に基づく地域における子育て（0～18歳）支援 	
③ 人と人、地域と地域のつながりの希薄化	<ul style="list-style-type: none"> ・核家族化の進行、住民間のコミュニケーションの希薄化 ・「別荘市民」の定住化と高齢化 ・「別荘市民」と「地元市民」の交流の減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・「パートナーシップのまちづくり」による市民・民間団体主導・行政支援の概念の導入 ・「リゾートテレワーク（ワークラボ八ヶ岳等）」の展開 ・公民館活動の展開と支援 ・「別荘市民」の参画による新たなコミュニティの形成 ・「立川IT交流会（35社）」と連携した人材・企業立地の戦略的確保 	

取組方針・取組スキーム（先端技術の活用方針）

人口減少・少子高齢化が今後も続くことを考えると、地域における一人ひとりの能力や活力を十分活かしていくとともに、高度なマッチングにより相乗効果を発揮させていく必要があります。

また、これまで拡大した社会インフラやライフラインを「拡大」から「維持・適正管理」へと専門能力を高める方向に転じていく必要があります。

そこで、この地に根付いてきた支え合い、助け合いの伝統的な「ゆい」を、先端技術の力によって未来型に発展させていくことによって、これからの地域の柔軟性と強靭性を確保していきます。

「限られた資源の最適な組合せによる柔軟性と強靭性の発揮・未来型「ゆい」の創造」

気づかない地域資源・活かされていない各種資源

- ・ 子育てや介護等による在宅者や65歳以上高齢者の活力
- ・ 女性の活力や感性、障がいのある方々の活力・発想力・才能
- ・ 男女・職種を問わず現役世代の副業意欲や自己啓発意欲
- ・ 入院中の方や寝たきりの方の創造力や発想力
- ・ 1家庭が2台以上所有している自家用自動車
- ・ 宿泊客の送迎以外に使用されない「送迎バス・車両」
- ・ 各種有資格者、釣りやキノコ・山菜採り、炭焼きなどの生活技能
- ・ その他各事業者が1台ずつ所有するも使用頻度が低い耐久消費財など

限りある地域資源・全面改修より維持が中心となる各種資源

- ・ 消防団・救急医療などの住民の生命・安全を守る組織的インフラ
- ・ 道路、橋梁、トンネル、護岸などのインフラ
- ・ 上下水道施設、送電線、情報インフラなどのライフライン
- ・ 河川、ダム、急傾斜地、山間道、登山道、火山、雪崩発生地などの氾濫や倒壊、崩落等の危険がある地形や構造物
- ・ 大型の公共施設や民間のビル、構築物、所有者が確認できないまま放置・老朽化した大型ホテル、中心商店街の空き家・空き店舗など
- ・ その地を訪れる観光客やリピーター

【先端技術の役割と可能性】

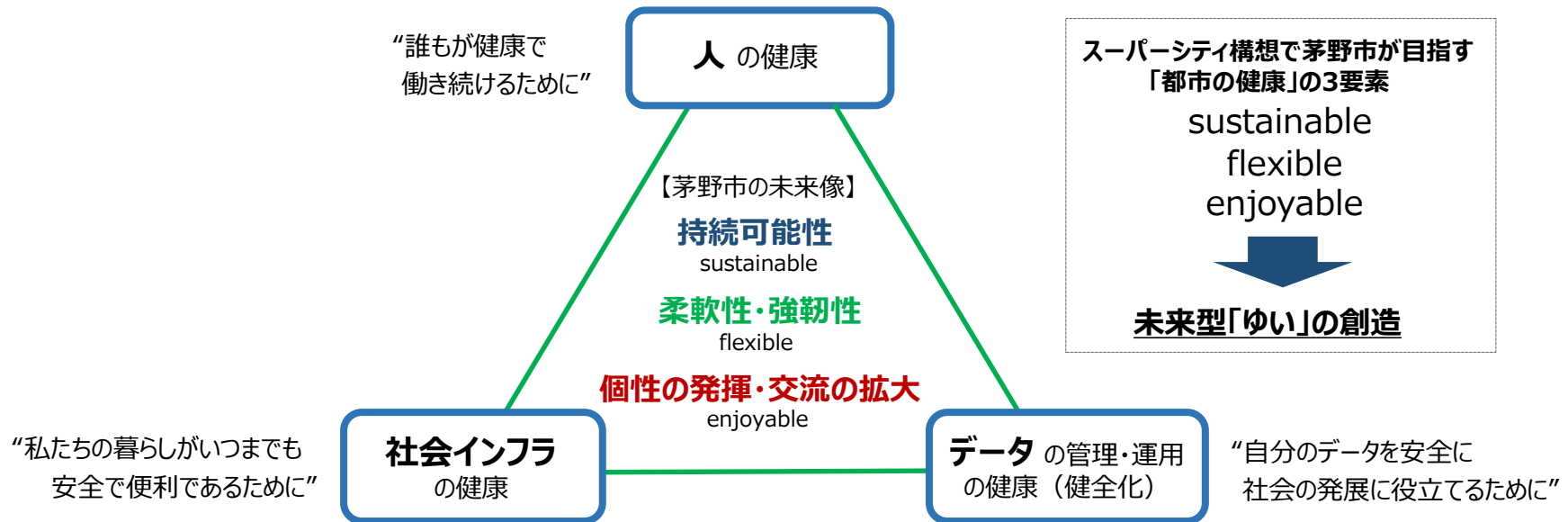
- | | | |
|----------------------------|---|--------------------|
| 作業や監視、警戒を代わりにやってくれる | ⇒ | 省力化・合理化 |
| ヒトやモノの動きや変化が分析・予測できる | ⇒ | 最適化・危険回避 |
| 個別のニーズをそれぞれの最適解につなげることができる | ⇒ | シナジー・創造力の発揮 |

【期待する効果・未来の姿】

限りある地域資源の有効活用
都市機能の持続可能性・活性化
最適なマッチングによる個人や組織の創造力の発揮

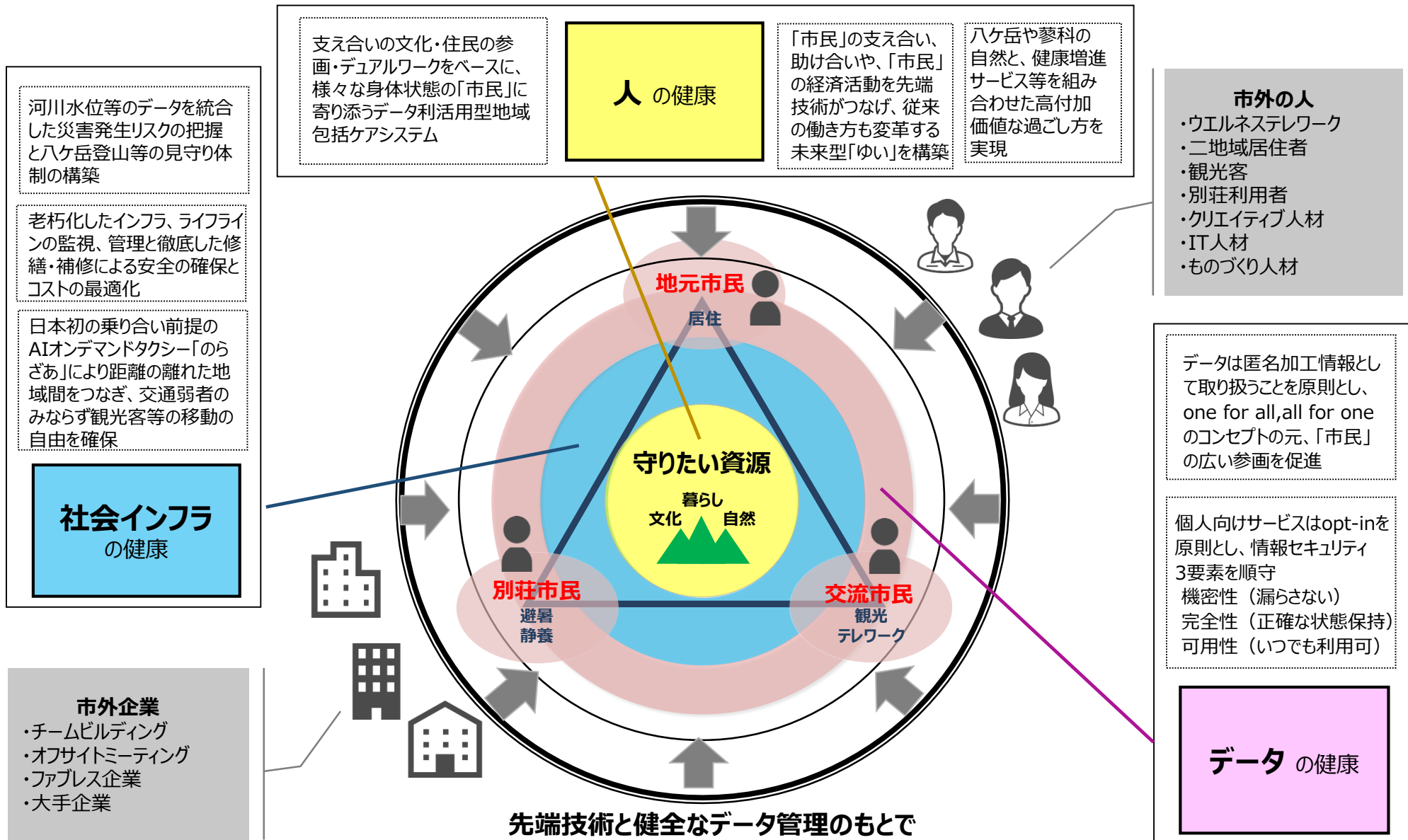
「 3つの“健康”で地域のアイデンティティを守り輝かせる茅野サステイナブルローカルシティ 」

【目的】先端技術を活用した“3つの健康”による都市機能の再構築



※「ゆい」：集落的、血縁的つながりを基に、農繁期には労働力を対等に交換し合って田植えや水路の維持などの作業を助け合ったり、冠婚葬祭や家事の支援などを世帯を越えて支えあう相互扶助組織のこと。農家相互間の交換契約に基づく互助的協同労働。

未来型「ゆい」で紡ぐ新たなローカルシティへの3つの「市民」の協働



茅野サステナブルローカルシティ構想の全体像

人の健康

社会インフラの健康

それぞれの「健康」を実現するための8つの要素事業

要素事業

医療・介護

支え合いの文化・住民の参画・デュアルワークをベースに、様々な「市民」に寄り添うデータ利活用型地域包括ケアシステム

滞在

健康増進をテーマにした高付加価値な過ごし方の提案や、八ヶ岳における安心登山等の見守り体制を構築

交流・支払い

「市民」の支え合い、助け合いや、「市民」の経済活動を先端技術がつなげ、従来の働き方も変革する未来型「ゆい」を構築

防災・見守り

水害等の災害発生リスクの把握や、人（八ヶ岳登山）、インフラ（橋等）等の見守り体制の構築

移動

日本初の乗り合い前提のAIオンデマンドタクシー「のらざあ」により距離の離れた地域間をつなぎ、移動の自由を確保

観光

お勤めのコースの選定から移動、飲食等の予約まで一括手配可能なシステムの提供

中小企業

完成品を産み出す市内外の企業の連携促進や大手企業とのマッチングの仕組みづくり

空き家

空き店舗を活用したりノベーションコンペやチャレンジショップ等の仕組みづくり

都市OS

データの健康

All in one みんなの「ゆい」ポータル / 寄り添いSNS

ビッグデータプラットフォーム × AI ⇒ 省力化、合理化、最適化

API

協力・支援

データ共有

協力・支援・基盤

病院

- ・実証実験等のフィールド提供や協力
- ・医療現場のニーズの抽出と、地元企業等への展開

大学

- ・オープンイノベーションの推進
- ・共同研究による地元企業の新技術・新製品開発の支援
- ・IT人材育成

産業

- ・産業間連携や域内外の企業とのマッチングの促進
- ・地元採用の推進
- ・社員の健康増進

行政

- ・企業や先端プロジェクトの積極的な誘致
- ・AI、RPAの導入
- ・デジタルガバメントの推進

通信 5G、ローカル5G、LTE、LPWA

交流拠点 JR茅野駅、駅周辺、地区コミュニティセンター、ワークラボ八ヶ岳、ワークラボチェルトの森、ワークラボ蓼科高原

人的資産 地域包括ケアシステム、パートナーシップのまちづくり、公民館活動

先端的サービスの概要（全体図）

人の健康

社会インフラの健康

のデータ健康

先端的サービス	医療 介護	滞在	交流 支払い	防災 見守り	移動	観光	中小 企業	空き家	目標
① 遠隔見守りで実現する多様な市民の急変感知と早急なケア体制の構築	○		○		○				○健康寿命と平均寿命の差を1年以内 ○高血圧の人の割合が長野県内19市の中で一番低い ○担い手不足を補う新たなマンパワーの増加 ○地域ポイントの市内流通量500万ポイント
② 予約、配車、処方薬配送、決済までの一括手配実現による受診環境改善	○		○		○				
③ 健康・生活データの蓄積と予測による生活改善プログラムの構築	○		○		○				
④ 身体データに基づき提供する高原ウエルネス最適化プログラム	○	○	○		○	○			
⑤ AIによる最適ルート選択・LPWA見守り安全登山ネットワーク		○	○	○	○	○			
⑥ 「ありがとうポイント」による地域振興プラットフォームの構築	○		○						
⑦ LPWAによるリアルタイムハザード・インフラ長寿化モニタリングシステム	○			○				○公共交通による市内の移動が目的地まで30分以内 ○インフラ、ライフラインの長寿命化 ○別荘利用者、観光客の増加 ○企業連携の増加 ○起業、創業者の増加	
⑧ AIオンデマンド「ハブ＆スポークシステム」による公共交通の最適化		○	○		○	○			
⑨ ストーリー豊かな旅を創造する観光資源最適化プログラム			○		○	○			
⑩ SUWALイクバレー中小企業デジタルコンソーシアムシステム							○		
⑪ 若者や移住者の感性を活かした空き家・コミュニティ再生プロジェクト							○		
⑫ 都市OSへのプライバシー管理機能実装と市民によるセキュリティ評価委員会 P I A	○	○	○	○	○	○	○	○	○データ漏えい事故ゼロ ○提供者の意図しないデータ活用事例ゼロ

全体スケジュール

人の健康

社会インフラの健康

のデータ健康

サービス	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度
① 遠隔見守りで実現する多様な市民の急変感知と早急なケア体制の構築		実証						実装		
② 予約、配車、処方薬配送、決済までの一括手配実現による受診環境改善		実証						実装		
③ 健康・生活データの蓄積と予測による生活改善プログラムの構築				実証					実装	
④ 身体データに基づき提供する高原ウエルネス最適化プログラム		実証						実装		
⑤ AIによる最適ルート選択・LPWA見守り安全登山ネットワーク		実証						実装		
⑥ 「ありがとうポイント」による地域振興プラットフォームの構築		実証						実装		
⑦ LPWAによるリアルタイムハザード・インフラ長寿化モニタリングシステム			実証					実装		
⑧ AIオンデマンド「ハブ&スポークシステム」による公共交通の最適化		実証						実装		
⑨ ストーリー豊かな旅を創造する観光資源最適化プログラム		実証						実装		
⑩ SUWAレイクバレー中小企業デジタルコンソーシアムシステム			実証					実装		
⑪ 若者や移住者の感性を活かした空き家・コミュニティ再生プロジェクト			実証					実装		
⑫ 都市OSへのプライバシー管理機能実装と市民によるセキュリティ評価委員会 P I A			システム構築					運用		

「茅野ローカルサステイナブルシティ構想」の3つの特徴

1 支え合いの精神 未だに残る共助の精神

- 全国に先駆けた地域包括ケアシステムの取り組み～ 公民協働による挑戦 福祉21ビーンズプラン ～
 - ・ヘルスアップモデル事業（2002年～2004年） 厚生労働省
 - ・地域における包括的モデル事業（2004年） 厚生労働省・国保中央会
 - ・介護予防モデル事業（2004年） 厚生労働省



心

2 3つの市民の存在 今後の経済施策を考えるための「課題先進都市」

- コワーキングスペースを活用した地域力向上まちづくり事業（内閣府地方創生関連交付金事業）
- 「信州リゾートテレワーク」事業（長野県モデル事業）
- 「（仮称）ちの観光まちづくり推進機構」（茅野版DMO）による地方再生モデル創造事業（内閣府地方創生関連交付金事業）
- JR茅野駅を基点に都市部と地方を人が行き交う環流促進事業（内閣府交付金事業）



未来

3 先端技術へのチャレンジの歴史 市民サイドに立った合理化、省力化への挑戦

- 産学公連携「スワリカブランド」創造事業（内閣府地方創生関連交付金事業）
- AIオンデマンド乗合タクシー「のらざあ」及びハブ&スポークによる新しい公共交通システムの構築（国土交通省補助事業）
- 「i-都市再生」（内閣府、国土交通省モデル事業）
- 「Project PLATEAU」（国土交通省モデル事業）



テクノロジー